

井出慎一郎

SF アニメにおける AI の存在

要旨

SF 作品と科学は共生関係にある。科学の発展によって新しい SF 作品は生み出され、SF 作品に触れて次世代の科学者が生まれる。その中で AI に着目し、SF アニメにおける AI の描写を分析することで、今後実現する可能性のある人と AI が共存する社会における価値観を考察することが本研究の目的だ。研究対象の SF アニメとしては『イヴの時間』『Vivy - Fluorite Eye's Song-』『AI の遺電子』の 3 作品とした。

昨今の AI の発展は目まぐるしいが、AI はその名称が一般的になる前から同様のアイデアが存在し、多くの SF 作品を生み出してきた。その一方で、AI に対しては様々な意見があり発展に伴う懸念も多い。SF アニメに描写されるような未来が現実になった場合、AI の人格や判断能力、心やその扱いなど、我々はどのように AI と関わるべきなのか。

分析において、どの作品でも AI に論理的思考が認められ、AI に心を見出すことができた。しかし、人間と AI には見た目にも明確な差異があり、AI と人間を同一視することは無かった。また、AI を人間視することについては作品ごとに是非が分かれ、定まった結論を出すことはできなかった。

各作品を分析し比較した結果から、AI はその発展の度合いに関わらず機械として扱うべきだと結論を出した。AI の発展に伴い、どこまで AI に権利や責任を伴わせるのかという議論もあるが、どの作品においても人間と同様に扱うことは無かった。AI がどれだけ発展しても使われる存在であることは変わらない。その事実を再確認する必要があるだろう。